

所属： 危機管理学部 危機管理学科
資格： 助教
氏名： 岡 麟太郎

研究課題名	英語未来表現に関する意味論的・語用論的研究：関係詞節における認識的willについて
研究目的及び研究概要	<p>未来に起こりうる出来事は、発話時（以前）の出来事とは異なり、未来のその時点に至らなければ、その真偽値を問うことができない。この特異性により、未来について言及する表現形式は多様である。しかしながら、現代英語において、未来表現の意味特徴に焦点を当てた包括的研究は依然として少ない。そのため、英語未来表現それぞれの「意味」を実証的かつ包括的に研究することには大きな価値がある。</p> <p>本研究の目的は、英語の未来表現の一つである will に焦点を当て、とりわけ形容詞節（関係詞節）におけるその意味論的・語用論的特徴を明らかにすることである。</p> <p>これまで、多くの伝統文法家によって、willの未来用法に関する研究がなされてきたが、それらは主に単文や、時・条件を表す副詞節、あるいは名詞節を対象としたものであった。特に、関係詞節における will の「意味」に焦点を当てた研究は、管見の限り存在しない。</p>
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	<p>【研究の進捗状況】</p> <p>本年度は、「関係詞節内の認識的will」に関する研究発表を行い、進捗は順調である。現在は、当該発表の内容をもとに投稿論文を執筆中である。また、これとは別に、現在査読中である未来進行形（will be -ing）に関する論文もあり、英語未来表現における意味論・語用論的研究は着実に進展している。今後の展望としては、日常的に用いられる周辺的な他の未来表現にも研究範囲を広げ、最終的には英語の未来表現全般を対象とした「意味」に根ざした包括的な研究へと発展させることを考えている。</p> <p>【研究実績】</p> <p>岡麟太郎, 2026 年 3 月, 「関係詞節における認識的 will について（再考）」, モダリティ研究会, 第 22 回モダリティワークショップ</p> <p>岡麟太郎, 2026 年 2 月, 「未来を表わす進行形と be going to の意味論的・語用論的考察-かたちが意味を物語る-」 日本大学危機管理学部, 第 4 回日本大学危機管理学部学内学会</p> <p>岡麟太郎, 2025 年 10 月, 「関係詞節における認識的 will について」, 英語語法文法学会, 英語語法文法学会第 33 回記念大会</p>